

授業科目名	批評論	担当教員	熊倉 敬聡
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第1クォーター		
講義内容	<p>芸術という営みは、作品の創造のみならず、それをいかに批評的に受容し、新たな知的・実践的文脈を作り出すか、すなわち「批評力」にもかかっている。本授業では、表現者のみならず、アートマネジャー、プロデューサーそしてもちろん批評家を志す者に必須なこの「批評力」を養い、向上させることを主眼とする。</p> <p>したがって、単に国内外の代表的な「批評家」のテキストを読解するだけでなく、実作品（ないしその映像）を見つつ、自らの批評力を高め、磨くライティング、ディスカッションも行う。</p> <p>なかんずく、アート業界においても「和」的心性を尊ぶあまり、えてして欧米的な「クリティック」が機能しにくいこの国において、真の「批評精神」とはいかなるものか、その精髓を探究する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「批評」を単に知的に理解するのではなく、実際に「作品」を眼の前にして、その鑑賞力の中に「批評力」を内蔵できるようにする。 ・各自の「批評力」を単なる「独断」ととどめないように、ダイアログを通して各自の「批評力」を相互に批評しあい、切磋琢磨できるようにする。 ・実際に自分で批評文を書き、読み合うことにより、「批評」を書くことの難しさ、楽しさなどを体得できる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.批評とは？(1)：批評の特徴とは？ 2.批評とは？(2)：「批評」の“いろは”を体験するーみんなで「ミシュラン」！ 3.「芸術」批評に向けてのレッスン(1) 4.「芸術」批評に向けてのレッスン(2) 5.「芸術」批評に向けてのレッスン(3)ー作品を「創作」してみるー 6.「芸術」批評に向けてのレッスン(4)ー作品を「考察」し「評価」してみるー 7.「芸術」批評に向けてのレッスン(5)ー「批評」文を書いてみるー 8.「Art」と「批評」の誕生：ヨーロッパにおける批評(1) 9.二つの「Art」、二つの「批評」：ヨーロッパにおける批評(2) 10.Art2.0と批評2.0：ヨーロッパからアメリカへ 11.日本における「批評」(1)：小林秀雄を読む 12.日本における「批評」(2)：東浩紀を読む 		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に読み、対話し、書く作業をするにあたって、事前に課題作品・テキストなどを見たり読んだりする場合がある。 ・授業中に課題が終わらない場合、事後にそれを完成させる必要がある。 		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて授業中に配布。 		

参考文献	適宜紹介する。
成績評価の基準	出席および授業内課題（50%）、最終レポート（50%）により評価する。
履修上の注意 履修要件	特になし
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員 50 名を超える場合は抽選とする。